

支部見聞録 (中国支部)

From 倉敷

## 新旧の賑わいの拠点を擁して 魅力と可能性を増す倉敷の町



倉敷川沿いの柳並木、白壁の商家や蔵……、古きよき情緒を今も受け継ぐ町並みで名高い倉敷。その倉敷が新施設のオープンや町並みの再生整備、中心市街地活性化事業によって、今また大きな動きを見せている。歴史と伝統を活かしながら新たな可能性に果敢に挑むその活力は、どのように形づくられ、どこへ向かおうとしているのだろうか。

駅北口のシンボル時計台と、新設されたアウトレットモールとショッピングセンターの複合型商業施設

### 駅北に誕生した倉敷の新名所

乗降客でにぎわうJR倉敷駅。北口に出ると正面に立つ時計台は昔のままだが、その向こうの光景が以前とは違っていることに気付かされる。かつてチボリ公園があった広大な空間に、2011(平成23)年11月に122店舗を擁する「アリオ倉敷」、12月には国内外の120のブランドを集めた「三井アウトレットパーク倉敷」が相次いでオープンしたからだ。イトーヨーカ堂が展開するショッピングセンター「アリオ」も、「三井アウトレットパーク」も中国・四国地方では初の開業。特にアウトレットモールについてはこれまでこの地方に本格的なものはなく、広く県外一円から倉敷に人を呼びこみ、600万人あった倉敷への年間観光客数は間違いなく倍増するといわれている。

アリオ倉敷と三井アウトレットパーク倉敷の間には、倉敷市が



水と緑の広大な公園「倉敷みらい公園」。写真右は園内のハイブリッド照明

取材・写真協力/倉敷市企画財政局まちづくり部 新市・まちづくり推進課、倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課、倉敷市観光客誘致協議会、三井アウトレットパーク倉敷、アリオ倉敷

整備した「倉敷みらい公園」が設けられている。倉敷用水の流れに沿って往復約600mの緑道が伸び、広々とした芝生広場を備えた約2.1ヘクタールの水と緑の潤いと憩いの空間



三井アウトレットパーク倉敷

だ。チボリ公園閉園が決まったのは2008(平成20)年8月だが、地主である民間企業の再開発計画がまだまったくの白紙だった同年11月に、市によって早くも緑地の確保と公園開設の方針が示された。

「防災上の観点からいっても、駅の近くには広がりのある空間が絶対に必要という伊東市長の確固たる考えに基づくものでした」と倉敷市企画財政局まちづくり部 新市・まちづくり推進課主幹の高木浩さんは言う。新しい公園には約350本の樹木が立ち並び、水遊び場や空中木デッキなどの施設とともに災害時に避難場所として使うための設備や太陽光と風力を使ったハイブリッド照明などを備えている。公園と二つの商業施設の間にはフェンスもなく、完全に一体となった設計も公共施設としては珍しく、先見的だ。

駅北で「今」を象徴する新たな賑わいと憩いの空間が創出される一方、駅南の伝統的な町並みや駅前商店街などでもさらなる整備や活性化の取り組みが着々と進められている。高木さんいわく「目指すのは、これらの倉敷駅周辺の各エリアが一体となった相乗効果による、より魅力的で活力溢れる町づくりです」。2015(平成27)年までを目処として市が策定した「倉敷市中心市街地活性化



倉敷川河畔は、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている

化基本計画のもと、行政と事業者、NPOや市民が連携して、魅力ある町づくりと活性化に向けて活発な動きを見せているのだ。

### 倉敷のシンボル「美観地区」の成り立ちと保存

さて、倉敷の伝統的町並みといえば、国から伝統的建造物保存地区に選定されている倉敷川河畔の風景を誰もが思い浮かべることだろう。しかし実はここに隣接した本町や東町にも、古い商家が軒を連ねる貴重な町並みが広がっていて、市の条例で保護されている。美観地区という呼び名はこれらのエリアの総称で、駅南口からは歩いて10分ほどの距離にある。商店街の昭和の匂いが残るアーケードを抜け、20～30メートルも歩けばもうそこは風情溢れる本町の町並みのただなかだ。左手に鶴形山を仰ぎ、そのまま進めば東町。右手に入れば倉敷川河畔に出る。

美観地区の伝統的な景観は江戸時代中頃から形作られてきたものだ。古来よりこのあたりは瀬戸内海の水運の要衝地だったが、1584（天正12）年、干拓によって周辺に広大な新田が拓かれたのを契機に、1642（寛永19）年には江戸幕府直轄の天領となり、物資集積地として急速に発展。有力商人層が台頭し、本瓦葺白壁の町家と蔵の町並みが形成されるようになった。

倉敷の伝統的な町並みの保存は、この有力商人層から出た大原家の存在を抜きには語れない。大原財閥を築いた孫三郎氏は大原美術館を開いたことでも名高いが、倉敷が空襲に遭わなかったのは、大原美術館に数々の世界的名画があったため…と囁かれている。確証のある話ではないが、少なくとも市民の多くがそう信じているという。そしてその長男である総一郎氏が倉敷の町並み保存の立役者で、必要性を周囲に説いてまわり、私財を投じてそのために尽くした。昔の家など見向きもされなかった昭和20～30年代のことで、彼の先見性と熱意がなければ高度成長期



新たに電線埋設や路面美化が行われ、整備された東町の町並み

を経て町並みが残ることはなかっただろう。

### 北と南を結んでさらに魅力と活気を増す倉敷の町

総一郎氏の熱意はやがて町の人々を巻き込んで大きな力となり、それに呼応して市が1968（昭和43）年に倉敷市伝統美観保存条例を制定したのを皮切りに、官民が足並みを揃えて町並み保存と町づくりに取り組んできた。

「現在、中心市街地活性化基本計画のもとで市が進めているのは本町や東町の電線埋設や石畳風道路への作り変え、南北の回遊を促す案内板の設置といった基盤整備です。一方「民」の大きな動きとしては、商工会議所が設立した倉敷まちづくり(株)による再生整備事業があります」と高木さん。一つは、薬品会社の旧家屋を対象としたもので、倉敷ならではの「ものづくりとデザイン」をテーマとしたスペースに改修、衣料や工芸雑貨を手がける個人や企業8テナントが出店して「林源十郎商店」として2012（平成24）年3月20日にオープンを果たし、多くの客で賑わっている。さらに2012（平成24）年度、老舗旅館だった建物も倉敷周辺の地の恵み・瀬戸内海の幸を供する「食の広場」として再生する予定だ。

さらに市民による空き家の再生・活用活動、バリアフリー化やおもてなしマイスター制度\*への取り組みなども行われ、また観光客向けのイベントも盛んに開かれている。町なかをちょっと歩いただけで、たちまちそれは明らかになる。春先なら「春宵あかり」、ゴールデンウィークの「ハートランド倉敷」や秋の「屏風祭」などのビッグイベントを筆頭に、いたるところで「2コイングルメ」「天領寿司祭り」、土曜日に開催される市「ろじいちば路地町庭」といったポスターやチラシを見かけるからだ。駅北と美観地区をつなぐ商店街周辺でも、月1回地元物産を集めて開かれる「三斎市」や大原美術館と連携した「ミュージアムストリート」「倉敷街なかスタンプラリー」「まちなか案内フラッグ」といった催しが活発だ。

町並み保存と町づくりに早くから市民が取り組んできた土地柄ゆえか、さらに遡れば自主の気性に富んだ天領領民の気風が受け継がれているからか…、町衆が町を守り盛り立ててきたという市民の思いは熱く、駅北と南、新旧の賑わいの拠点を擁して、活力ある倉敷の町はさらにその魅力と可能性を広げている。

\*高齢者・乳幼児連れの人や障がい者、外国人などに手助けできる人の認定制度

別冊 FROMはウェブサイトへ  
 eふあみり もあわせてご覧ください!

<http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/>